

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 市民教育厚生委員会
2. 視察期間 令和4年11月21日から 令和4年11月22日までの 2日間
3. 視察先 兵庫県尼崎市 山口県山陽小野田市
4. 視察項目 (尼 崎 市) 不登校等の児童生徒の支援対策について (山陽小野田市) コミュニティスクールの取組について
5. 参加者 〔委員（議員）〕 塩塚 敏郎、島野 知洋、桑原 誠、崎山 恵子、平嶋 慶二 平山 光子、光田 茂、山田 修司 〔随行者〕 西原 一彦
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 令和5年3月30日 報告者 <u>塩塚 敏郎</u> 大牟田市議会議長 殿

6. 考察

I. 兵庫県尼崎市 【人口】 455, 551 人 【面積】 50. 71km²

【視察事項】 不登校等の児童生徒の支援対策について

【概要】

1. 子ども教育支援課の業務について

子ども教育支援課については、以前は生徒指導担当・教育相談・特別支援担当と別れていたが平成 31 年の組織改編で、生徒指導担当については、そのままいじめ防止担当生徒指導担当に、生徒指導担当の中に生徒指導と適応指導担当（不登校）に分かれていた分野の適応指導と教育指導部門を子ども教育支援課に移行する。

不登校について、かつて生徒指導の問題行動の一部としてカテゴライズされていた時代があったが、そうではなく誰にでも起こり得ることであるとして、生徒指導から分けて繰り入れられ、また文部科学省の方からも通知があり指導ではなく支援という形で子供たちに接していくという考え方で組織改編がなされた。

子ども教育支援課については不登校部門と教育相談部門を担っている。

事業としては不登校対策事業・教育支援室運営事業・心の相談事業。

不登校については、教育支援室運営事業とサテライト教室運営事業があり、ハートフルフレンド派遣事業が対策の中核となる。

2. 不登校者数の現状について

令和 3 年 676 名（中学校）、351 名（小学校）であり、全国の問題行動調査でも 24 万人を超える不登校者が確認されており、全国の各自治体でも右肩上がりに上昇を続けている状態にあり増加傾向が続いている。

尼崎市の不登校の出現率について

令和 3 年 1. 71（小学校） 全国平均 1. 30

7. 02（中学校） 全国平均 5. 00

3. 尼崎市の不登校対策について

不登校対策事業の詳細については先述の教育支援室事業・サテライト教室およびハートフルフレンド事業が核になっているが、中でも大きな核になっている事業が教育支援室のほっとすてっぷ事業となり市内に 3 か所設置されている

（ほっとすてっぷ EAST 定員 40 名 ほっとすてっぷ WEST 定員 20 名 ほっとすてっぷ SOUTH 定員 20 名）不登校の子どもたちに対して個別の相談、集団での指導、

基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための指導や援助を行っている。
ほっとすてっぷ SOUTH についてはオンライン対応のほっとすてっぷオンラインも併設されている。

2つ目の大きな柱はサテライト教室事業であり、市内8か所に設置しています。比較的外出ができ、学習に取り組みたいと考えている不登校の子どもたちを対象に、身近な居場所、学習の場として、地域の生涯学習プラザ等を活用して、こども自立支援員が学習支援を行っている。

3つ目の柱はハートフルフレンド事業であり、ボランティアの方を不登校の方のところへ派遣している。

この3つの事業をグラデーションにし、支援体制をつくり本市の不登校支援の考え方である。

4. 所感

不登校については、全国的に増加傾向にあり今後も増加することが予想される。

その中で、不登校対策については、以前の考え方では「指導」であったことに対し、現在は「支援」という形に変わっており、その支援についても程度によりその在り方について、幅広く体制の整備が重要であると考えます。

現在、大牟田市でも学力向上とともに不登校対策は本市教育の大きな課題であり、このような事例を参考にして、不登校対策を推進する必要があると考えます。

Ⅱ. 山口県山陽小野田市 (【人口】 60,464人 【面積】 133.09 k m²)

【視察事項】 山陽小野田市のコミュニティ・スクールについて

【山陽小野田市】

山陽小野田市は山口県南西部に位置し、宇部、下関、美祢市に隣接し、南は瀬戸内海に面しており、重要港湾である小野田港がある。山陽自動車道、国道2号、山口宇部空港など交通の要衝である。セメントを中心とした工業のまちとして栄えている。同市は平成17年3月に小野田市と山陽町が合併して誕生した。

【山陽小野田市のコミュニティ・スクール】

(1) 山陽小野田市学校教育方針

「元気と笑顔あふれる学校の協創」

○山陽小野田市の特色ある学校教育の推進

- ①一人一台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現
- ②地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト
- ③包括的連携協定核とした山口東京理科大学との連携・理数教育の充実
- ④「つながる学び」を生かしたキャリア教育の推進
- ⑤ふるさととつながる子どもの育成
- ⑥市立図書館と連携した読書活動の推進

学社連携による 人が育ち 人が輝き 人がつながる CSの創造

○家庭や地域との中学校区で連携した取組

(2) 山陽小野田市 生徒の現状

- ・将来への夢や希望 H30年山口県肯定率73%
R3山陽小野田市肯定率82.2%
- ・自分には良いところがある 同県68%、同市85.0%
- ・学校で勉強したことを生活の中で活用 同県71%、同市87.0%
- ・地域の出来事への関心 同県61%、同市74.4%
- ・地域の大人を見て頑張ろうと思う 同県73%、同市82.4%
- ・今住んでいる地域に住みたいか 同県53%、同市59.3%
→県と比較して5%以上高い

(3) コミュニティ・スクールを進めるメリットは？

①子どもにとって

- ・学校だけでは得られない学び、人間関係づくり、コミュニケーション能力
- 郷土を愛する心



②保護者にとって

- ・子どもの成長、子どもが見守られているという安心感、地域の一員という自覚、地域とのつながり

③地域にとって

- ・行事の担い手、地域の将来を支える人材の育成、地域の活性化

④学校・教職員にとって

- ・学校の応援団づくり、授業・環境等のサポーター、多様な人とのかかわり、教職員の資質能力の向上

(4) 「やまぐち型地域連携教育」の推進

コミュニティ・スクールを核とした地域のネットワークの変化による人づくりと地域づくりの好循環の創出。

中学校区で地域協育ネット協議会を立ち上げ、それぞれの学校でコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を。「学校を核とした地域づくり」を行うことで、支え合い・助け合う温かい地域の絆がある「地域コミュニティの創造」や、県内のどこでも安心して子育てができる「子育て環境の充実」。そして「地域とともにある学校づくり」で「社会に開かれた教育環境の実現」や、子どもがふるさとに誇りや愛着をもっている「地域の担い手の育成」。「学校・家庭・地域」が大切にしたいことをそれぞれが思いを確かめ合い、コミュニティ・スクールでは、地域のみならず「地域の子どもたち」を育てる取組を実践している。

(5) 地域教育協議会とは

平成24年に、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを推進することを目的として設置2つの視点地域貢献（学校⇄地域）学校支援。

具体的には

- ・地域全体で学校を支援する体制整備
- ・学校が必要とする活動について
→地域の方々をボランティアとして派遣

(6) 学校経営ビジョンの共有

- ・学校運営協議会＋地域教育協議会＋生徒による熟議
- ・教育ビジョンと付けたい力について、グループに分かれて熟議
- ・中学校区の教職員・学校運営協議会による熟議

(7) 地域の様々な機関や団体と連携した取組

- ・山陽小野田市立山口東京理科大学と連携した理科教育の推進
- ・人権擁護委員による教育講演会や授業

- ・市高齢福祉課による出前授業
- ・人権擁護委員による授業
- ・地域教育協議会との連携した取組（学校支援）
- ・有識者による面接指導
- ・専門家や団体による土曜授業や学習ボランティア
- ・小中学校と地域が一体となった花いっぱい運動
- ・小学生による播種作業や中学生による配布作業（生産から加工、販売を子どもたち自身の手で行い、6次産業化を経験することによって、望ましい職業観や勤労観を育むキャリア教育を小中一貫で）

○地域貢献活動を地域と共に

- ・地域行事に運営スタッフとして参加
- ・市ふるさとづくり協議会との連携
- ・中学生市議会の開催（住みよいまちづくりについて提案）

（8）市内中学校の取組の例

- ・学校運営委員会に児童が参加し、一緒に熟議を行う
- ・地域連携、小中連携による学校行事、地域行事

3 竜王中学校区（竜王中学校・本山小学校・赤崎小学校）について

◇山陽小野田市の南部に位置し、山と海に囲まれ、自然豊かな地域

◇炭坑として発展し、大きく栄えたが閉鎖により、人口減少

【竜王中学校区のコミュニティ・スクール】

学校教育目標を統一 9年間を通じた児童生徒の育成

○りゅうみんネット小中学校経営ビジョン

〈りゅうみんネット学校教育目標〉

誇りと志をもち、自ら学び考動し、たくましく生き抜く児童生徒の育成

○めざす児童生徒像

- ・ふるさとを愛し、ふるさとに育まれる児童生徒→りゅうみんPRIDE部会
 - ・主体的に学び、高め合い、最後まで頑張りぬく児童生徒→学び部会
 - ・他者と協働し、よりよい人間関係づくりを大切にする児童生徒→心みがき部会
- 自他の安心安全と健康のためによりよい生活を築く児童生徒→体づくり部会

（2）地域でつながる小小・小中連携

○子どもたちの交流

小6・中1・小野田高校 かるた交流会

小6・中2 小中合同ふれあい授業

○先生方の交流

小中連携教育合同研修会(教職員)学期に1回、夏季休業中1回

○ふるさとづくりを核とした学校・地域連携

- ・平成30年度～小野田高校百人一首かるた部との交流
- ・令和2年度～小中高校交流

ねらい

- ・小倉百人一首という日本固有の文化に興味をもち、かるた学習の活性化を図る
- ・幅広い世代間の交流を通して小中高の校種間連携を深め、リーダーシップや責任感、自主性、積極性、礼儀や作法、相手を重んじる態度等を養う

●山陽小野田市におけるかるた振興の一助にする。

○学校・地域連携カリキュラムの見直し

〈アサギマダラおいでませ大作戦〉

昨年度まで本山小6年生総合的な学習の時間地域の方とサワヒヨドリの苗を植える。

→本年度は、本山小と赤崎小の5年生総合的な学習の時間地域の方とサワヒヨドリの苗を植える。



つけたい力：地域を愛する心

事前：目的・つけたい力を意識→目当ての設定

事後：どれだけ達成できたかの振り返り

地域：目的・つけたい力を共有

(3) 地域学校協働活動推進委員

地域学校協働活動推進委員(学校運営協議会副会長)が学校と地域の調整役となっている。

(4) ふるさとを愛する児童生徒の育成

○山陽小野田市が一斉に行う各自治会の清掃日

おもてなし大作戦(8月の第1日曜日)。りゅうみんネットクリーン作戦を同時開催子ども(小学生、中学生)と保護者、そして教職員が地域へ。

○児童生徒が主体

参加から参画のための体験を。

地域の方との特技発表会「ハッピーフェスティバル(特技の発表と作品の展示)」。

竜王ブランド化～平成28年度スタート～

学校課題にチャレンジ活性化を目指して目指す学校像、生徒にとって行きたい学校。保護者によって行かせたい学校。地域の方々にとって応援したい学校。



「つながり」プロジェクト～令和4年度スタート～

学校と地域の課題解決に向けて

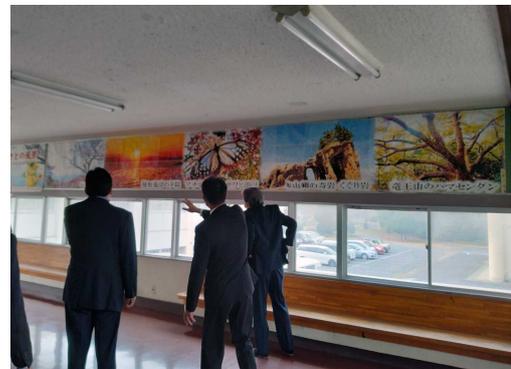
付けたい力として

- ・地域を愛する力
- ・自ら学ぶ力
- ・協働する力
- ・自己管理能力

他の学校にない竜王中らしさを築く諸活動を通して、生徒一人ひとりが自らを高め、誇りにできる学校づくりをしていく取組→自己肯定感の高揚

(5) 地域と連携した取組

	学び部会	心みがき部会	体づくり部会
地域貢献	竜王山さくらまつり 赤崎夏まつり 本山盆踊り大会 本山フェスティバル 赤崎ふるさと秋祭り 赤崎ふれあい文化祭 赤崎児童館まつり	保育実習 保育園児支援 介護老人施設訪問 赤崎地区敬老会 本山地区敬老会 学校正門周辺ゴミ拾い 小中合同クリーン大作戦 敬老会でのメッセージ作成 保育園夏まつり	やけの美タフェスタ 竜王山ウォーク 市中学生カラーリング大会 本山地区防災訓練 赤崎地区防災訓練 赤崎ウォークラリー 市民カーニバル出演 本山カラーリング大会 マグダーツ大会
	図書館図書業務 夏休みの宿題支援 国語科習字指導 家庭科裁縫指導 学習支援 山口東京理科大学生による学習支援ボランティア	樹木せん定・草刈り 職場体験実習生受け入れ ベルマーク整理 竜中ハートフルデー講師 家庭教育学級の講師 生け花教室 卒業生へのコサージュ製作 花壇の整備	部活動支援 文化祭ステージ発表 家庭科調理実習 職業講話の講師 立志式の講師 校内防災訓練の支援 性教育講演会の講師 郷土料理・季節料理教室



(6) ふるさとに貢献できる学校づくり

ふるさとの良さ再発見プロジェクト (R1)

☆プロジェクトのねらい

私たちが生まれ育ったふるさととはどんなところだろう。

豊かな自然、先人の思いがいつまでも残った歴史的遺産、今を支える産業や施設、そしてふるさとの有名人など、まだわたしたちが知らないふるさとの良さを探ることで、ふるさとへの愛着を深め、ふるさとを支える気持ちを高めることをねらいに、このプロジェクトに取り組んだ。



総合的な学習の時間のテーマ「ふるさとを愛する気持ちの醸成とふるさとへの定住」

ふるさとの良さ発信(提案・CM作成) (R4)

地域をPRするCMを班ごとに作成

(7) 成果と課題

□成果

- ・難しいことへの挑戦

H30山口県肯定率67%、R 3 竜王中学校肯定率89.5%

- ・地域のボランティア活動への参加 同県74%、同市93.4%

◇めざす生徒像の生徒との共有→生徒の主体的な行動促進

- ・自分には良いところがある同県68%、同市90.8%
- ・学校で勉強したことを生活の中での活用 同県71%、同市92.1%
- ・地域の大人を見て頑張ろうと思う 同県73%、同市85.5%

◇学びの成果を実感する場の提供

◇地域との協働によるまちづくり→自己肯定感の高揚

■課題

○生徒

- ◆ふるさとや地域を愛する気持ちの醸成
- ◆ふるさとへの定住
- ◆目標をもち、主体的に学習する気持ち

○教職員

- ◆教職員の参画意識の高揚
- ◆一人ひとりが取組を担い、組織として推進しているという自覚との説明であった。

【所感】

大牟田市でも「小中一貫教育推進事業」に基づき、数校で検証を進めている。山陽小野田市は10年間取り組まれている言わば先進地である。発足時には様々な問題が山積し、地域学校協働活動推進委員の存在が大きいことを感じた。視察を通して、児童生徒の地域に思う気持ちを醸成していくことは大切なことだが、その時間を学校で捻出することができるか課題もあると思う。いじめ防止対策、不登校への対応なども踏まえた「安心して学べ、地域とともにある学校づくり」ができるよう、今後の「大牟田版コミュニティ・スクール」推進事業の取り組みを考える上で参考になった。